

1591年 今から約430年前に、伊達政宗公が米沢から岩出山に居城を移し、内川の整備を命じました。そこに十分な水を引き込むために縦14.4m、横9mの大きな木造の堰を造りました。それが当時としては、非常に大きかったので「大堰」と呼ばれるようになりました。



1909年 大堰が造られた後、大洪水が起こるたびに大堰は破壊され、その度に多くの労力や費用をもって復旧工事を行わなければなりません。明治時代も終わりに近い、1910年(明治43年)、大堰を江合川の流が安定している上流側に移設することになりました。その後、1922年(大正11年)木造であった堰がコンクリートに造り改修されました。

1947年～1948年 コンクリートで強固な造りになった大堰でしたが、戦後に未曾有の台風が日本を襲撃し、大堰もその被害をまともに受けてしまいました。1947年(昭和22年)のカスリン台風と1948年(昭和23年)のアイオン台風によって、堰体が損壊し流出し取水ができなくなりました。

1949年～1951年 台風によって大堰が流出したので、農家の人達は、土嚢を積み上げて、何とか取水できるようにしましたが早期の本格復旧は簡単ではありませんでした。その後、災害復旧工事が始まり1951年(昭和26年)に完成しました。

1967年 施設の老朽化や土砂吐機能を正常に確保する必要から特別団体が排水事業により改修を行い、現在の堰頭首工の姿になりました。

2005年 それから約40年経過してコンクリートのひび割れやコンクリートの欠損箇所が目立ってきました。国営かんがい排水事業により2003年から堰頭首工の表面のコンクリートを30cm削って、新しいコンクリートで補修する工事を行い2005年に完了しました。同時に魚が登りやすいように魚道も改修しました。



# 世界農業遺産 内川・大堰

世界農業遺産に認定された「持続可能な水田農業を支える大崎耕土の伝統的水管理システム」は、「やませ」による冷害や洪水、渇水が頻発する厳しい自然条件の中、農業用水の確保や排水対策など、農業農村の営みのあらゆる場面で水を巧みに管理する様々な知恵や工夫、数多くの苦勞を重ねながら、米づくりを中心とした水田農業により「大崎耕土」と称される豊穡の大地を承継してきました。

大崎耕土  
世界農業遺産

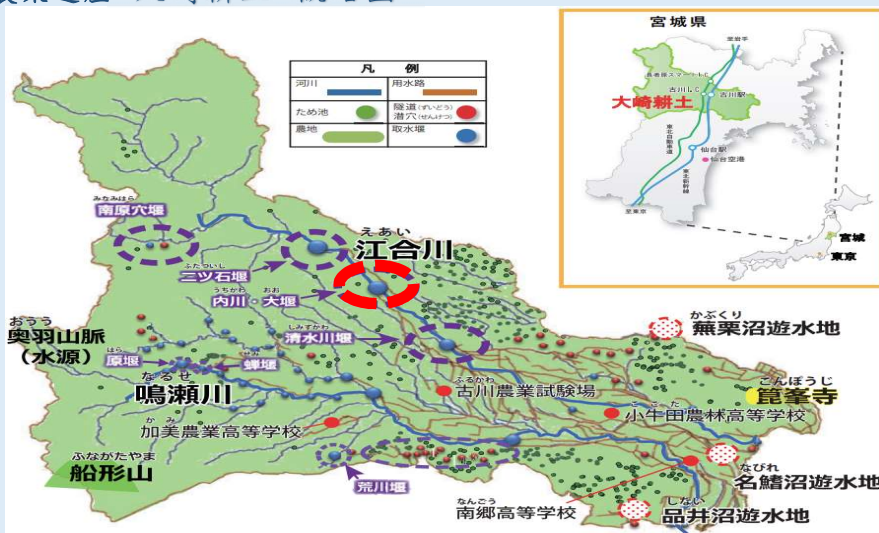


OSAKI  
KOUDO  
GLOBALLY IMPORTANT  
AGRICULTURAL  
HERITAGE SYSTEMS



大崎市岩出山に位置する内川は伊達政宗公によって掘られた水路です。農業用水路のほか、城を守る外堀も兼ねていました。「一ノ橋」という堰の内側を流れていたことが「内川」の名前の由来といわれています。

## 世界農業遺産 大崎耕土 概略図



内川の取水源である大堰は伊達政宗公が洪水防止と農業用水確保のために、木造の「大きな」樋門を作ったのが始まりです。度重なる台風等の被害に遭いながらも地元関係者等の尽力により復旧を繰り返してきました。現在も大崎耕土の約3,300haに用水を供給する重要な農業水利施設として機能を果たしています。

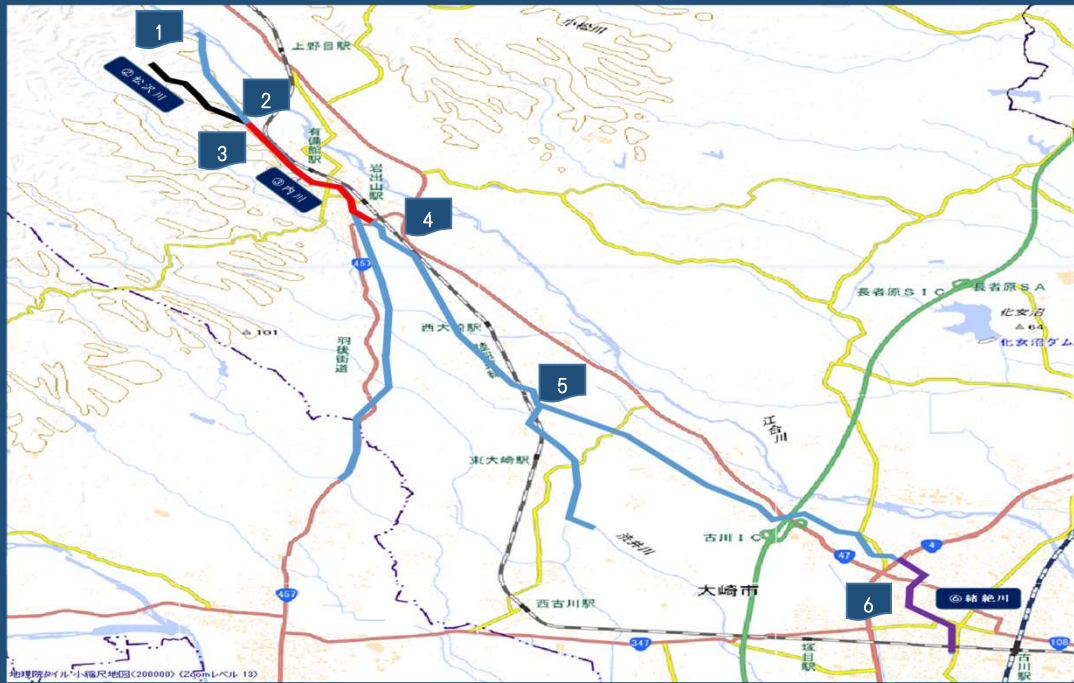
作成: 宮城県北部地方振興事務所 農業農村整備部  
TEL: 0229-91-0725 Email: nh-nnbnos@pref.miyagi.lg.jp

関係機関: 大崎地域世界農業遺産推進協議会  
TEL: 0229-23-2281 (大崎市産業経済部世界農業遺産推進課)  
Email: osaki-giahs@city.osaki.miyagi.jp



大崎地域世界農業遺産推進協議会のHPでは様々な関連情報を掲載しています。

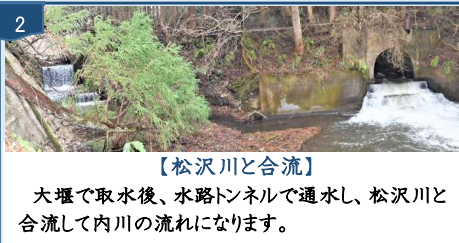
# 内川・大堰 周辺地域の概略



## 内川地区水環境整備事業全体構想図



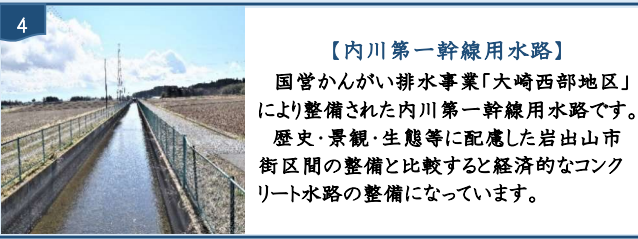
**【大堰頭首工】**  
 大堰で取水した後、水路トンネルで通水し、松沢川と合流して内川の流れになります。



**【松沢川と合流】**  
 大堰で取水後、水路トンネルで通水し、松沢川と合流して内川の流れになります。



**【水力発電所跡】**  
 1912年(明治45年)建設の水力発電所の跡です。



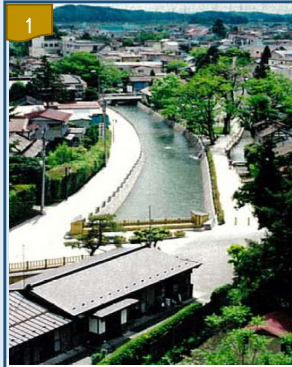
**【内川第一幹線用水路】**  
 国営かんがい排水事業「大崎西部地区」により整備された内川第一幹線用水路です。歴史・景観・生態等に配慮した岩出山市街区間の整備と比較すると経済的なコンクリート水路の整備になっています。



**【三方分土工】**  
 用水の配分は、歴史的に見ても農家にとっても非常に重要な作業です。ここ三方分土工で三方向に用水が配分されます。



**【緒絶川】**  
 内川の水は、大崎市古川市街まで到達し緒絶川の流れとなります。緒絶橋付近では平安情緒を感じられます。



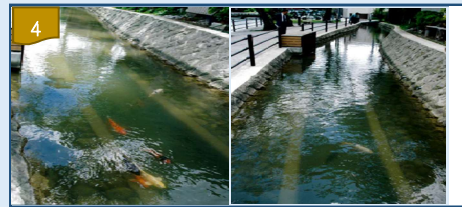
**【内川の流れ】**  
 城下町の風情が残る有備館から岩出山市街近辺は歴史の香りを漂わせながら満々と流れる内川が流れています。



**【岩出山城と内川】**  
 岩出山城・東の物見付近を内川から見上げると、天然の要害として機能し敵を寄せつけない地形となっていることが分かります。



**【二の構(にのかまえ)橋】**  
 一の構の内側に位置したので、内川の名称由来となりました。この付近の南側に二の構があったので橋梁の名称になっています。



**【錦鯉がおよぐ枝水路】**  
 内川の流れは住民の憩いの場でもあります。生活に豊かな水の恵みを取込み美しい景観を醸成しています。



**【牛洗い淵ポケットパーク】**  
 内川の水路護岸は、天然石で整備され歴史・景観に配慮されました。水路周辺も政宗の川にふさわしく公園や遊歩道を備えています。

北部地方振興事務所  
 農業農村整備部HP

巧みな水管理施設の歴史等を水物語として掲載しています。

